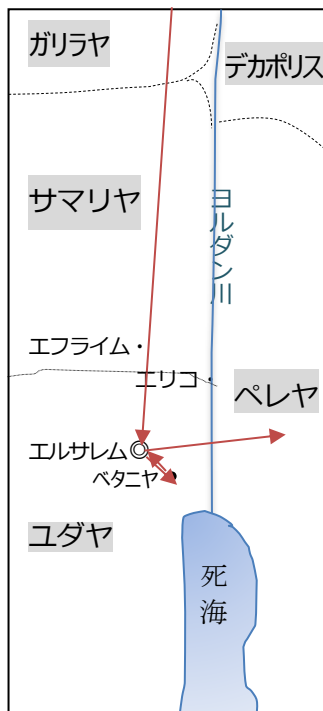


「真の良い牧者 主イエス」



主イエスはエルサレム周辺に留まれ、神の国について教えておられた。12月下旬の冬、エルサレムでは「宮きよめの祭」が行われていて、ソロモンの廊ではラビたちが神学の論争を楽しんでいた。そこに現れた主イエスに、彼らは議論をふっかけてきたが、主イエスは羊飼いに^{たと}喩えて、律法主義で偽りの牧者である宗教指導者と、真の良い牧者であるご自身との違いを説明されたのである。しかし、ユダヤ人たちは受け入れないで反^{かえ}って、主イエスを捕らえようとしたのである。

主イエスはエルサレムを去り、ペレヤ地方やエフライムで春まで、癒しのみわざをされ、神の国について教えられた。

父なる神のみこころを行われるために遣わされた主イエスの使命は、律法の行いによるのではなく、罪人である私たちの罪を赦し、さらに私たち罪人の本質を変える御業を成し遂げることである。そのために主イエスは、ご自分の命を捨て、私たちの身代わりに十字架に贖いを成し遂げ、罪を滅ぼし、復活されたのである。主イエスこそ、私たちの真の大牧者である。

[聖書の学び]

I、真の良い牧者

(ルカ 10:1~4)

「宮きよめの祭」は「ハヌカの祭」のことである。これは BC200 年頃、シリアの王が神殿を荒し、偶像礼拝をユダヤ人に強要した。反乱が起こしたユダヤ人たちが神殿を取り戻した事に由来している

1、羊と良い羊飼いとのかかわりはどのようなものでしょうか。

(ヨハネ 10:1)

①羊飼いは羊の門となる

- ・ 冬 場 : 夜は共同の小屋や囲いに羊を入れる。鍵は羊飼いが持っている。
- ・ 暖かい季節 : 羊飼いは夜、丘の斜面の穴に羊を入れ、穴の入り口に寝る。

②良い羊飼いは命を捨てる（羊飼いがいなければ、羊を放牧することはできない。）

- ・ 高原地帯は牧草に乏しく、崖が多い。
- ・ 羊は迷いやすく、自力では帰れない。
- ・ 狼や羊泥棒に狙われている

ルカ 15:4 参照

良い羊飼いは命をかけて、羊を守る

2、羊飼いは自分の羊を知り、羊も羊飼いを知っている（ヨハネ 10:2～4）

①朝になると、共同の小屋や囲いから、それぞれ名前を呼んで連れ出す。（v3）

②羊も自分の羊飼いを知っている。（v4）

【例として】ヨハネ 9 章

生まれつき目の見えなかった人——癒された時主イエスを見ていなかった。

主イエスが救い主と分かり信じ、礼拝した。

Ⅱ、偽りの牧者と真の牧者

（ヨハネ 10:12～16）

1、偽りの牧者(律法)は、羊(人)の罪を示すだけである。

律法にかなう事



◎人間の考える中で、神様に喜ばれるためにすること … 良い行いをする事

・神様は、人の心の底の良くない思いまで知られる。（マタイ 5:21～22 p7）

・過去の罪を消すことは、律法(良い行い)ではできない。（使徒 13:38 p262）

・律法は罪を示し、罪責感で苦しめる。（ローマ 3:20 p301）

2、真の牧者は羊(人)の真の必要を満たして下さる。

・罪の解決・赦し----自分の身代わりに、主イエスが罰を受けて下さったと信じる者に、
罪の赦し、永遠のいのちが与えられる。（ヨハネ 10:28）

・罪の性質の解決---キリストに全てを明け渡し、キリストと1つになることにより、
キリストと共に死に、共に復活のいのちを頂く事ができる。

（ローマ 6:4～6 p306）

Ⅲ、父なる神と一つである主イエス

（ヨハネ 10:17～29）

①十字架の救いは、父なる神のみこころによる（v17～18）

②父なる神と主イエスは一人の神である。（v30）

③主イエスの羊は、父なる神の羊でもある。（v29）

* **ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。